

一五周年、節目の二〇一五年。

レッドベリースタジオ主宰 飯塚優子

レッドベリースタジオは、二〇一五年二月で一五周年を迎えました。いつもご支援ありがとうございました。瞬く間の一五年、と感じる一方で、身辺を顧みれば私とこの空間を取り巻く状況は、大きく進み巡って、隔世の感があります。オープン以来、スタジオを訪れる人たちとの出会いを愉しみ、日々なにくれとなく助けてくれた母が、二〇一五年八月急逝し、この場のひとつの時代が終わりました。いまは追悼の時のなかにあります。

さてこの一年のレッドベリースタジオの催しを概観すると、演劇公演七回、落語六回、古楽器・民族楽器によるライブ・コンサート七回といったところが目につきます。

演劇では、しばしばレッドベリーで公演していた複数の演劇集団が軒並み、より大きな空間（パトス、BLOCK, ZOOなど）で公演するようになり、このところ全く新しい集団がいくつつか、旗揚げ公演や試演会で利用してくれる傾向があります。どんな展開になるのか、見守りたいと思います。

落語は、二〇一四年一〇月から月一回の企画としてスタートした「林家卯三郎上方落語一人会・春まで六回連続」が番外編を加え四月まで続き、かねてから念願だった「近隣在住の常連客」いつも来てくださるご近所のお客様」が少しずつ形成されつつあることは本

当にうれしいことです。

音楽等では、カンテレのシニツカ・ランゲランと彼女を招いたあらひろこ、ダンスのジャン・サスポータストとベースの斎藤徹、ベースの瀬尾高志とタップのレオナ、ピアノの板谷大、シタールの井上憲司とタブラの逆瀬川健治、等等、様々なジャンルの第一線アーティストが、レッドベリーを会場に様々な広がりをつくってくださっています。

二〇一五年の特筆すべき活動は、地元琴似の歴史にまつわる「琴似屯田兵入村一四〇周年事業」の一環として上演した『会津藩、かく戦へり』（一月二〇日、二二日、会場コンカリーニヨ）に企画制作で参画したことです。一三年前に初演されたこの澁谷健一作品を、この機会に是非再演しようと事前準備を進め実現にこぎつけました。琴似まちづくりセンターをはじめ、屯田子孫会、町内会など町を挙げての実行委員会により三日間五回の公演が満席となり、確かな手ごたえがありました。

レッドベリースタジオは、西区八軒にある場の名称、であると同時に、今後は場をここに限定しないプロデュース活動の主体としても、動いてみたい。そうすることであらためてこの場の存在意味が見えてくるように感じています。